



# 新たな国重要文化財が誕生!

～小樽港北防波堤・南防波堤・島防波堤～



写真提供：小樽開発建設部

## 防波堤が重要文化財に

100年以上もの間、荒波から小樽港を守ってくれている小樽港防波堤施設（北防波堤・南防波堤・島防波堤）が、令和8年1月15日の官報告示により、正式に国の重要文化財に指定されました。

同施設は、日本で初めてコンクリートを使って築いた外洋防波堤であり、当時の最高水準の日本人技術者による土木構造物で、日本の港湾の発展を物語る歴史的価値が高いことなどが評価されました。これで小樽市内の重要文化財（建造物）は、「旧日本郵船小樽支店」、「旧手宮鉄道施設」、「旧三井銀行小樽支店」と合わせて4件となります。

## 二つの胸像

旧日本郵船小樽支店前の運河公園に二つの胸像があるのをご存じですか？

一つは北防波堤を建設した初代小樽築港事務所長の廣井勇と、もう一つは南防波堤と島防波堤を建設した第三代同事務所長の伊藤長右衛門です。二つの胸像はもともと小樽港を一望できる小樽公園に

設置されていましたが、平成11年に有志によって、より港に近い現在地に移設されました。

港湾工学の父と呼ばれた廣井が計画・設計した北防波堤は、長さ1,289mで、コンクリートブロックが使用されました。

廣井は、コンクリート製の構造物が国内にほとんど無かった当時、厳冬の北海道に適したコンクリートを開発しようと試行錯誤の末、外国の文献を参考にセメントの強度を増すため、火山灰を混ぜ、自らシャベルを取ってコンクリートブロック作りを行いました。さらに、猛烈な波の力に耐えるため、20tもあるようなブロックを斜めに積むといった、当時、スリランカのコロンボ港で行われていた世界最先端の工法を採用するなど、世界から注目された第1期小樽港修築工事を明治30年から明治41年までの11年かけて完成しました。次に、廣井の教え子で職場の後輩でもある伊藤が、北防波堤の延伸工事（長さ419m）と南防波堤（同915m）・島防波堤（同916m）を築造する第2期小樽港修築工事を明治41年から大正10年までの13年間かけて行いました。特